

# 2018 Annual Report

一般社団法人 Colabo | 2018年 活動報告書

「すべての少女に衣食住と関係性を。  
困っている少女が暴力や搾取に  
行きつかなくてよい社会に」を合言葉に、  
中高生世代を中心とする  
10代女性を支える活動を行っています。



Colabo



## 私たちの想い（設立趣意書）

高校時代、私は渋谷で月25日を過ごす“難民高校生”でした。家族との仲は悪く、学校でも理解しようとしてくれる大人と出会えず、街をさまよっていた私は当時、「自分にはどこにも居場所がない」と思っていました。街には同じような想いを抱えて集まっている人がたくさんいました。ファーストフードや漫画喫茶、居酒屋、カラオケの他、ビルの屋上に段ボールを敷いて一夜を明かしたこともありました。当時の私や友人たちは、家庭にも学校にも居場所をなくした“難民”でした。

そうした少女が、見守る大人のいない状態で生活するようになると、危険に取り込まれやすくなります。心身ともにリスクの高いところで搾取される違法の仕事、性的搾取への斡旋や、暴力、予期せぬ妊娠や中絶など、目をつぶりたくなるような現実を、私はたくさん目にしてきました。友達を助けられないこともありました。

高校を中退し、このままでは生活できない、どうすればよいのだろうと悩んでいましたが、頼ったり、相談したりできる大人はいませんでした。そんな私に声をかけてくるのは、買春者か、危険な仕事か性的搾取に斡旋しようとする人だけでした。それ以外に、自分に関心を寄せてくれる大人はいないと感じていました。

それから十数年が経ち、私も「大人」と言われるようになりました。今でも、そうした少女に路上やネット上で声をかけるのは、多くが手を差し伸べる大人ではないのが現状です。

「大人はわかってくれない」「大人は信用できない」という声には、「一緒に考えてくれる人がいたら」「信じてくれる人がいたら」という想いが込められているのではないのでしょうか。必要なのは、特別な支援ではなく、「当たり前の日常」です。

私たちは、出会う少女たちの伴走者となり、共に考え、泣き、笑い、怒り、歩む力になりたいと思っています。すべての少女が「衣食住」と「関係性」を持ち、困難を抱える少女が暴力を受けたり、搾取に行きつかなくてよい社会を目指して活動を続けます。



2019年5月  
一般社団法人Colabo  
代表 仁藤夢乃



## 2018年度 活動概要

### ■ 相談事業

・利用者数	552名
・面談	656回
・同行支援	69回
・他機関連携	170件

### ■ 夜間巡回・アウトリーチ

・夜間巡回	18回
・声掛け人数	1,583名
・バスカフェ 開催数	17回
利用者数	212名

### ■ 食事・物品提供

・食事提供	609食
・物品提供	600件以上
・『難民高校生』	127冊

### ■ 一時保護・宿泊支援

一時シェルター	
・利用者・日中利用件数	35名、296件
・宿泊者・宿泊数	9名、49泊
中長期シェルター（一時保護利用）	
・利用者・宿泊日数	12名、182泊

### ■ 自立支援

・シェアハウス入居者	9名
・就労支援	50回

### ■ サポートグループTsubomi

・参加者・活動回数	32名（のべ137名）、55回
・企画展「私たちは『買われた』展」	7箇所で開催

### ■ 啓発事業

・講演会	30回、2,924名参加
・街歩き研修	26回、266名参加

## 目次

■ 私たちの想い	1
■ 2018年度活動概要	2
■ 相談事業	3
相談を受けた少女への対応	
■ アウトリーチ事業「TsubomiCafe」	5
■ 食事・物品提供	6
■ 緊急時の保護・宿泊支援	7
■ 自立支援（シェアハウス・就労支援）	8
■ サポートグループ「Tsubomi」	9
企画展「私たちは『買われた』展」	
■ 啓発事業	11
夜の街歩きスタディーツアー	
■ メディア掲載	13
■ 会計報告	14
■ 会員・寄付・物品応援	15
■ ご支援のお願い	16
■ 応援メッセージ	17

# 相談事業

相談者数  
**552**  
名

夜の街を巡回し、HPやSNSなどを通して全国から寄せられる相談にのっています。

## 利用者の年齢と状況

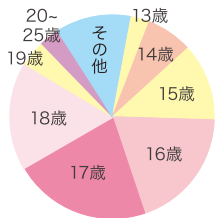
利用者数 ————— 552名

・本人からの相談 ————— 488名(うち、新規408名、男子10名)

・本人以外からの相談 — 64名(親類19件、支援者13件、友人・知人13件、学校6件、医師1件、その他12件)

### ■利用者の年齢 (本人からの相談、18年度新規相談者)

- 0~5歳 ————— 4名
- 12歳 ————— 8名
- 13歳 ————— 12名
- 14歳 ————— 30名
- 15歳 ————— 50名
- 16歳 ————— 79名
- 17歳 ————— 89名
- 18歳 ————— 69名
- 19歳 ————— 17名
- 20~25歳 ——— 13名
- 25歳以上 ——— 5名
- 不明 ————— 32名

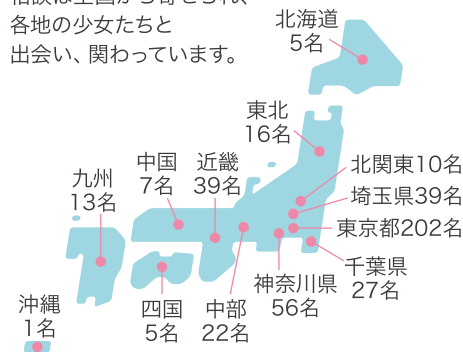


### ■出会ったきっかけ (18年度新規相談者)

- ・SNSを通して ————— 138名
- ・街で声をかけられて ——— 80名
- ・友人の紹介 ————— 52名
- ・支援者・知人の紹介 ——— 29名
- ・メディアを通して ————— 28名
- ・授業や講演 ————— 12名
- ・仁藤の著書を読んで ——— 5名
- ・HPをみて ————— 4名
- ・その他(「私たちは『買われた』展」等) ——— 50名

### ■居住地 (18年度新規相談者)

相談は全国から寄せられ、各地の少女たちと出会い、関わっています。



## ■相談内容

### 家族のこと

- ・家族関係
- ・虐待(身体的・精神的・経済的・性的虐待)
- ・ネグレクト)
- ・家に帰りたくない
- ・家を出たい
- ・家出
- ・家を追い出された
- ・居所なし
- ・生活困難
- ・子育て
- ・親の自死

### 学校のこと

- ・高校中退
- ・進路
- ・友人関係
- ・不登校
- ・いじめ
- ・教員について

### 性のこと

- ・性暴力被害
- ・性的搾取被害
- ・JKビジネス
- ・恋人からのDV
- ・妊娠・中絶
- ・性感染症
- ・セクシャリティ

### その他

- ・就労相談
- ・労働相談
- ・公的機関の対応について
- ・借金・金銭トラブル
- ・精神疾患
- ・自傷行為
- ・死にたい
- ・薬物等への依存
- ・発達障害
- ・知的障害

相談は、虐待に関するものと、性暴力や性的搾取の被害についてが多くあります。過去に児童福祉などの公的支援につながったときに、適切に対応されなかったことから不信感を抱く少女たちとの出会いも続いています。相談者に「児童相談所と関わったことはある?」と質問すると、「あんたもそっちの人間か」と厳しい目つきでバリアを張るような様子を見せたり、夜の街で声をかけたとき「保護じゃないよね?」と怯えた表情で言われたりしたこともあります。

生活が困窮し、家庭が福祉に繋がっていないながらも虐待を受け、うわばきや文具を親に買ってもらえない、給食費や

修学旅行費が払えないなどの理由から性売買に関わっていた中高生との出会いや、「親の都合で学校に行かせてもらえない」、親に怒られるから「病院に行けない」という相談や「ガスや電気が止まっている」「親が家に帰ってこなくなった」「家に帰ったら自分の荷物が全部捨てられていて、家にも入れなくなっていた」などの相談も複数ありました。

安心して過ごせる場所を持たないまま、なんとか生き抜こうとする中で、危険に巻き込まれた少女たちと出会っています。少女の紹介などを通して男子と出会い、関わることもあります。少女は性的搾取の被害にあったり、性的に商

品化され消費されることが多くありますが、少年は犯罪に加担したり、搾取する側として使われたりすることがあります。

安全を手に入れてからもトラウマや精神的な不安と付き合いながら生きていかなければならないことも多く、一時的、緊急的な支援だけではなく、医療や福祉と連携しながら、中長期的なかわりや暮らしづくりを支える活動の必要性を感じています。しかし、不安定な状態であればあるほど、次の住まいや、連携できる支援機関や病院等が見つからないことが多く、受け皿が少ない現実に直面しています。

# 少女たちの伴走者に

少女たちはいくつかの問題を複合的に抱えています。

困っている人の一番の困りごとは、「助けて」と言えないこと。

「あなたはどうしたい？」と問われても、それがわからないことです。

混乱した生活の中、落ち着いて考えられる環境や、一緒にものごとを整理してくれる人との信頼できる関係性や体験があって初めて、自分の状況に向き合うことができます。

私たちは、食卓を囲む時間や体験を共有し、何気ない日常を積み重ねることで互いを知り、困った時に頼れる関係を築きたいと考えています。

半年以上密に関わって初めて、性虐待の被害にあっていることを話してくれる人もいます。

ほとんどの場合、抱える問題はすぐに解決できることではありません。

だからこそ、長い目で付き合い、ともに喜びや苦しみを分かち合い、泣き、笑い、怒り、

共に歩める伴走者でありたいと活動しています。

## 相談を受けた少女への対応

### ■面談：656回

- ・本人との面談 ————— 617回
- ・その他関係者との面談 — 39回



### ■同行支援：69回

- ・役所 ————— 13回
- ・弁護士相談 ————— 12回
- ・家庭訪問 ————— 12回
- ・児童相談所 ————— 7回
- ・学校 ————— 4回
- ・病院 ————— 4回
- ・各種手続き ————— 3回
- ・児童養護施設 ————— 2回
- ・警察 ————— 2回
- ・その他機関への相談 — 3回
- ・引っ越し ————— 4回
- ・出国 ————— 3回

### ■他機関連携：170件

- 公的機関 ————— 62件
- ・学校 ————— 23件
- ・役所 ————— 18件
- (生活保護10件、子ども家庭支援センター3件、女性相談5件)
- ・児童相談所 ————— 10件
- ・少年院 ————— 5件
- ・警察 ————— 4件
- ・女性シェルター — 1件
- ・保育園 ————— 1件
- 民間団体等 ————— 65件
- ・子ども支援団体 — 26件
- ・弁護士 ————— 18件
- ・性暴力被害者支援団体 12件
- ・女性支援団体 — 11件
- ・病院 ————— 9件
- ・学習支援団体 — 6件
- ・宿所提供施設 — 4件
- ・労働組合 ————— 2件
- ・里親 ————— 2件
- ・児童養護施設 — 1件
- ・婦人保護施設 — 1件
- ・その他支援団体 — 2件
- 企業 ————— 14件

## 同行支援から見えてきたこと

必要に応じて家庭や警察、病院、児童相談所等への同行支援を行っていますが、特に、性的搾取の被害にあったり家出を繰り返していた少女たちが公的支援を受けることに高いハードルを感じています。彼女たちは、そうせざるを得ない状況を生き延びてきたと私たちは考えていますが、「非行少女」として取り締まりの対象となったり、問題行動があるからと支援機関での受け入れを拒まれてしまうことがあります。

性虐待から逃れ、地方からやってきた女の子と警察に相談に行ったら「事件が起きた地元は今すぐ自費で帰って、

そちらで被害届を出すように」と言われたり、ホームレス状態で性売買に関わり生き延びていた女の子が生活保護の申請をした際に役所から「うちでは現在地保護はやっていない」などと違法な説明を受けたり、「体を売って生活するのをやめたい。家にいたくない」と保護を求めた高校生に、児童相談所が性依存症の自助グループを紹介し、家に帰したこともありました。彼女たちに必要なのは、指導や管理ではなく、安心して過ごすことのできる場所や、信頼できる大人との関係性、医療や教育、専門的なケアなどです。教育や福祉に関わる仕事に就く人の中にも、ま

だ理解者は少なく、少女たちの背景に目を向けられる大人を増やしたいと考えています。

相談者の状況によって、一時的な対応でいったん問題が和らぐこともあれば、中長期的な関わりが必要な場合もあります。頼れる家族がいなかったり、親族から身を隠して生活しなければならない状況にあったりする場合は、シェルターを出た後も、家探しから、大家への挨拶、住所変更手続きの手伝い、トラブル対応、病気の時の看病、洗濯や掃除、食品の保存方法、服薬管理や貯金、進学や就労、子育てに関してなど、生活全般を見守っています。

# アウトリーチ事業 「TsubomiCafe」

夜間巡回

18  
回

声掛け人数

1583  
名

カフェ開催数

17  
回

カフェ利用者数

212  
名

移動バスによる10代女子無料の夜カフェ。渋谷・新宿で定期的に開催しています。夜の街を巡回し、少女たちに声をかけ、繋がっています。

## 夜の繁華街で出会い、声をかけ、つながる



週に一回、夜の渋谷と新宿・歌舞伎町で無料のバスカフェを開催しています。ピンクのバスとテントが目印のこのカフェでは、飲み物や食事が無料。バスの中では、生活に必要な物品や衣類、コスメやコンドームなどを提供しています。

夜の街で少女たちを探し、声をかけるのは、性的搾取を目的とした人ばかりです。渋谷や新宿などの繁華街では、毎晩100人ほどのスカウトが街に立ち、少女たちに「どうしたの?」「仕事探してない?」と声をかけています。彼らは食事や宿泊場所を提供し、「衣食住と関係性」を与えるようにして近づきます。それは決して「セーフティネット」ではなく、商品として扱ったり、性的に搾取したりするための手段です。困っている子どもたちが支援につながる前に、危険に取り込まれています。

私たちはこれまで、そうした少女たちに声をかけ、連絡先を渡す方法でアウトリーチを行ってききましたが、カフェをはじめたことで「今日やっているから、寄っていかない?」と声をかけ、その場で関係性を作ることができるようになりました。

支援に繋がらない少女の中には、自分の困りごとに気づいていなかったり、あきらめ感が強かったり、自暴自棄になったりしている人が少なくありません。「大人に諦められた」と感じる経験をしていたり、自己責任論の中で「自分が悪い」と思い込み、声を上げられずにいる人もいます。「相談」や「支援」という言葉や行為に抵抗感を持つ人も少なくありません。

そのため、TsubomiCafeでは「相談」や「支援」を目的としない場づくりをしています。少女たちに利用してもらいやすいように、大人が「してあげる」場所ではなく、少女たち自身が気軽に立ち寄り、セルフサービスで、自由に過ごせる雰囲気を大切にしています。顔が見える関係性を作ること、何かあったときに思い出してもらえたらと考えています。

この活動は、韓国の民間団体の実践を参考に始めました。2017年9月に韓国視察に行き、「日本でもできるはずだ! やりたい!」と協力を呼びかけはじめ、約1年後の2018年10月からこの事業をスタートさせました。スピード感を持って、必要だと思ったことを形にできたのは、活動に賛同し、応援してくれたみなさんのおかげです。



中学生・10代 Free! 無料!

- ☆ドリンク
- ☆フード
- ☆コスメ
- ☆ファッション

●ピンクのバス  
●女の子の顔が目印

Twitter @colabo\_official  
LINE@ @stw3060m  
HP colabo-official.net  
Instagram colabo.official

# 食事・物品提供

一緒に料理したり、食卓を囲んだりする時間を大切にしています。おなかを満たすだけでなく、自分の状況を整理したり、出会いや関係性づくりの場にもなっています。

食事提供

609

食

物品提供

600

件以上

応援者の方からいただいた衣類、文具、生理用品、生活用品などを少女たちに贈っています。

「難民高校生」

127

冊

出会った中高生や、学校や少年院で授業を聞いてくれた少女たちに仁藤の著書を贈っています。

「一緒にご飯を食べよう」その一言から始まります。



困っている人の一番の困りごとは「助けて」と言えないことです。非行や家出をくりかえしていたり、困難を抱えたりしている少女たちの中に、「自分の問題なんだから、自分でなんとかしなきゃ」「周りを巻き込みたくない」と思っている人は少なくありません。

その結果、ひとりではどうにもならない事態に発展しているケースもあります。

私たちは、そんな少女にまずは「一緒にご飯を食べよう」「今度ご飯食べにおいでよ」と声をかけています。共に料理をし、食卓を囲み、笑いあい、互いの話をし、関係性をつくりたいと考えています。

「鍋など大勢で食べる料理を食べたことがない」「誰かが料理している所を見たことがない」という人もいます。ある時「調理されていない野菜や生肉を見たのは数年ぶり」と高校生が言いました。彼女は、妹たちと子どもだけで生活していて、家には包丁や食器もないことがわかりました。「家に食べ物が何もなし」と連絡があり、食料を

届けることや、児童養護施設を退所した人、家族が頼れない状況にある全国各地の少女たちへの食品や生活用品の提供も行っています。Colaboに



来ると、おにぎりやおかずが持ち帰れるようになって、翌日の食事や冷凍保存用として、また家族や恋人に持ち帰る人もいます。

食事の場は「相談する」ことへのハードルを下げることにもつなげます。困ったときに「相談したいです」と申し出ること、誰にとっても簡単ではないでしょう。そんなとき、女の子たちは「そろそろご飯したいです」と連絡をくれたり、こちらから誘ったりしています。

「大人はわかってくれない」という言葉の裏には、「理解しようとしてくれる大人がいたら」という想いが込められています。彼女たちに必要なのは特別な支援ではなく、当たり前の日常です。私たちは食卓を囲むことを通して、困ったときに、できれば事態が深刻になる前に相談できる関係性をつくり、彼女たちがいつでも戻ってこられる「ホーム」の1つとなれればと考えています。



# 緊急時の保護・宿泊支援

## 一時シェルター

安心して過ごせる場所がない少女が一時的に過ごすことのできる場所として運営しています。利用が数日に渡る場合は、中長期シェルターでの一時保護を行いました。

### 体を休め、落ち着いて考えられる場所を



安心して眠れる場所がないとき、困るのは、泊まれるところがないこと。「家にいられないとき、声をかけてくるのは体目的の男の人だけだった。そういう人しか自分に興味を持たないと考えていたし、頼れるのはそういう人だけだった」と

ある中学生が言いました。2011年の団体設立時から、行き場を失った少年少女たちを代表仁藤の自宅に泊めていましたが、少女たちが気軽に立ち寄れて、自分たちで自由に過ごせる場所を作ろうと寄付を募り、2015年夏にシェルターを開設することができました。

「今の状況を変えたい」と思っている人のほか、公的な保護につながることを嫌がりながらも「今日は安心して過ごせる場所がない」という人や、家出し見知らぬ人の家の転々とする生活を続けながらも「ちょっと休みたい」という人も使える場所。

虐待や性暴力被害等からの緊急的な保護だけでなく、「今日は母親の彼氏がいるから家にいられない」「自宅の電気やガスが止められている間だけ泊めてほしい」「試験期間だけ泊まって朝起こしてほしい」「家ではゆっくり眠れないから仮眠したい」などの利用もOKとしています。宿泊以外にも、日中のんびりするのに使ったり、パソコンや宿題をしにきたり、キッチンやお風呂や洗濯機の利用も自由にできるようになっています。

### 一時シェルター

日中利用者  
利用件数  
35/296  
名 件

利用者  
宿泊数  
9/49  
名 泊

中長期シェルター  
(一時保護利用)

ホテル等、シェルター以外  
での緊急保護

利用者  
宿泊数  
12/182  
名 泊

利用者  
5  
名

必要に応じて、弁護士などの専門家と連携し、相談者が安心・安全な場所で生活できるように一緒に考えます。これまで利用した人の中には、里親のもとで生活をはじめたり、児童福祉施設に入所したり、一人暮らしを始めるなどしている人がいます。しかし、未だ安定した生活を手に入れられずにいる人も多く、2016年度から、中長期シェルターとして、10代後半～20代前半の女性のためのシェアハウスを始めました。





# 自立支援

シェアハウスとして運営する中長期シェルターでの生活支援や、就労支援を行っています。

## シェアハウス・就労支援

### ■シェアハウス（中長期シェルター）



中長期シェルター2箇所を「10代後半～20代前半の女性のためのシェアハウス」として運営しています。各家には、鍵付きの個室

が3部屋とリビングやキッチン、風呂、トイレなどがあり、初期費用なしで入居でき、はじめの三か月は家賃無料（それ以降は月額利用料3万円～ですが、状況に応じて相談）。家具家電あり、お米食べ放題。

入居者の主体性を尊重し、ルールは毎月のミーティングで一緒に決め、食事やゴミ出しなどは自分たちで行います。Colaboは彼女たちが主体的に生活を



送れるようにサポートし、今後の生活に向けた計画を一緒に立てます。ここで暮らす間に、生活スキルを身に付け、学校に通ったり、仕事をしてお金を貯めたりし、一人暮らしなど、それぞれの描く次の生活を目指します。2019年度は、既存の6部屋に加え、さらに9部屋増設する計画です。



### ■就労支援

就労を目指す少女たちに、資格取得や求人に関する情報提供や、面接の練習、履歴書の書き方講座、ハローワークへの同行などを行っています。Colaboと繋がりのある企業や商店等と連携し、アルバイトとして就労体験の機会をつくり、実際に就職に至ったケースも4件ありました。今後も協力者や協力企業を増やしていきたいと考えています。



50  
回

- 情報提供 ————— 24回
- 就労体験 ————— 12回
- 仕事紹介 ————— 4回
- 退職手続き ————— 5回
- 履歴書の書き方講座 — 3回
- 面接練習 ————— 2回

# サポートグループ「Tsubomi」

Tsubomiは、Colaboとつながった少女たちによるグループです。それぞれが自分の状況に向き合いながら、ともに活動し、支え合いの関係も生まれています。

延べ参加人数  
137名

参加者  
32  
名

活動件数  
55  
回

## つながり、主体となって活動する



Colaboとつながる少女たちがつながり、共に過ごし、主体となって活動する場。同じように悩んできた人たちと

出会うことで自分の状況を整理したり、向き合ったり、回復に向けたきっかけにもなっています。合宿や夏祭りなどの体験活動を通して社会問題について学んだり、誕生日や成人祝い、卒業や就職などのお祝いを一緒にしたり、クリスマスや年越しを一緒に過ごしたりしています。児童買春の実態を伝える「私たちは『買われた』展」など、経験や想いを伝える活動も行っています。

- 季節のイベント：誕生日会、入学・卒業・就職祝い、お花見、クリスマス会、遠足、イルミネーション鑑賞 ●研修・教室：料理、アロマ、ネイル教室、学習会 ●ものづくり：アクセサリー制作 ●出店：バザー、夏祭り、TsubomiCafe手伝い ●伝える活動：企画展の開催 ●体験活動：映画鑑賞、工場見学、職場見学・体験、ボランティア、ヘアカット ●合宿：夏合宿、秋合宿、年越し合宿、新春合宿等



「私に努力をしると言うのなら、もっと大人も私を見る努力をして。」

14歳 Yさん

私は、幼い頃から家族が嫌いだった。スパルタな勉強や、暴言、暴力、その他諸々あるけど、主な理由はそんな感じ。親は出来のいい兄と弟には甘く、私には、頭もよくなく、これと言った長所もないので言いたい放題言ってくるからという事もある。

一日中父親が付きっきりで勉強して、分からない所があると殴られたりもした。1回怒られるのにつき3時間以上。説教というか、もう暴言「お前はただ飯を食って寝ているだけの家畜の豚だ」とか、「バカ」って1時間言われ続けたり「俺は子どもの時お前より痩せてた。このデブ」とか。怖くて、早く説教をやめさせようと反論しないで「はい」ってずっと繰り返してた。

自信を失って、心に空いた穴を埋めようと、わざと明るくふるまった。そうしてないと自分を保っていらなかった。そのおかげで、自分は明るい性格で、誰とでも仲良くできたりはするけれど、そのせいで酷い目に会うこともあった。

小学校高学年のとき、兄が私が寝てる間に性暴力をふるってきた。その前にも兄に性的なことをされていただけ、その意味を理解していなかった。親にばれて怒られたり殴られたりするのが怖くて、誰にも言わず寝ている振りを必死にしていた。そんな事が何年か続いて、誰かに言わなきゃと思い、考えに考えた結果児童相談所に行った。性暴力の事は、私がずっと明るい性格で通ってきたからか、信じている人と、信じていない人が未だに居るし、両親の外面が良かったからか、先生にも気づかれなかった。

でも先生、一日を勉強に使って、夜に性暴力を受けて疲れていた様子とか、風呂に余裕で1週間入れないし、歯も磨かなかつたし、服も同じ服を着ていたり。そういう些細な事だけでも気づいて欲しかった。表だけを見て決めつけなくて欲しかった。

支えてくれる人が少しはいる今も、私はあまり人を信用できない。自分も信用出来ないのに、周りの人を信用できない。信用してる友達にも内容が内容で相談できない。親譲りの猫かぶりを使って何とか問題児にはなっていないけど、潔癖症や不眠症のせいで、周りに馴染めていない気がして学校も行きにくくて、不登校気味だ。自傷行為はしていないけど、中学生なのにピアスを開けている。少し周りとは差ができてくる気がする。やる気も出ないし、周りのものがどうしても汚くて、息苦しい。普通を押し付けられて正直疲れている。

コラボの人や、薬が支えでどうにかなっているけど、身近な人も理解しようとして欲して欲しい。逃げようとしてネットに依存してる気もする。もっと気楽に生きたい。

書いたこともほんの1部だけけど、どうしてまだ中2なのにこんなに考えなきゃいけないんだと思ってる。自分は頑張ってるし、甘えているとは思わない。

# 企画展「私たちは『買われた』展」



各地で企画展を開催したい団体を募集中!



**企画目的** 中高生世代を中心とする当事者がつながり、声を上げることで、自分たちの権利を回復し、児童買春の現実を伝え、「売春」のイメージを変えたい。これまで表に出ることができなかった「買われた」私たちの声を伝え、今も苦しんでいる少女たちや、かつて似た苦しみを経験した女性たち、すべての女性に勇気を与えたいと、Colaboとつながる14~26歳まで28人のメンバーが立ち上がり、写真や体験談、手記、日記「大人に伝えたいこと」をテーマにした作品を作成しました。メンバーは増え2018年度は32名が展示に参加しました。

2018年度は兵庫、広島、島根、千葉、徳島、岡山と、韓国で日韓展を開催し、2016年8月のスタートから計17箇所で71日間開催、約1万名の方にご来場いただきました。



パネル貸出しについてはお問合せください

2018年度主催団体(開催日順)  
NPO法人ホザナ・ハウス(兵庫県・神戸)、「こどもの笑顔と安心、安全な地域づくり!」ネットワーク(広島県)、一般社団法人しまね性暴力被害者支援センターさひめ(島根県)、10代女性人権センターxColabo日韓共同企画展(韓国)、シェアスル(千葉県)、女性グループ・すいーぶ(徳島県)、一般社団法人子どもソーシャルワークセンターつばさ(岡山県)

売春している中高生について、どんなイメージを持っていますか?

ある大学の授業で学生たちにごう投げかけると、こんな言葉が返ってきた。

- 快樂のため
- 愛情を求めて — その場限りの考えで
- 遊ぶお金がほしいから — 優越感に浸るため
- 自分も街で買春をもちかけられたことがあるけど、断った。だから、やる人はやりたくてやっているんだと思う
- 正直、そんな人と関わりたくないと思う
- どうしてそこまでやれるのか、理解できない

「そんなもんだよ。世の中の理解なんて。もう、そんなことでは傷つかなかった。」

当事者のAは言った。

後日、このことをColaboにつながるメンバーで共有し「イメージを変えたい!」と、この企画に至りました。

「行くところがないとき、声をかけてくれるのは男の人だけだった。他にご飯を食べさせてくれる人も、泊めてくれる人もいなかった」  
(16歳・高校生)

「親も頼れる大人もない、ひとりで生きていくしかないと思っていた。買った大人への怒りとかいうよりも、買われる前の背景があることを知ってほしい。家族や学校、施設で虐待されたり、ひどいことを言われたりしたことが繋がっている。そうでもしないと、生きられなかった。」  
(20歳・高校生)

「Colaboには、同じような経験をしたお姉さんがたくさんいて、昔同じような経験をした女の人から支援が届いているのを知って、自分だけじゃなかったって安心した。考えてもらうきっかけになったらいいし、何か感じてもらえるだけでいい。」  
(15歳・中学生)



日本では児童買春について「援助交際」などの言葉で、少女たちが気軽に足を踏み入れるものというイメージで語られてきましたが、そこにあるのは「援助」や「交際」と言えるようなものではなく、「支配」と「暴力」の関係性です。企画展を通して、金銭を介することで性暴力を正当化しようとしたり、買う側の気軽さには目を向けない大人がたくさんいることにも気づきました。

一方、企画展を通して、「私も同じ」と人身取引や性虐待などの被害に遭っていることを相談してくれる中高生との出会いが続いています。声を上げた少女たちの体験に共感し、「これまで、苦しんでいるのは自分だけだと思っていった。自分を責めていた。変わることも、抜け出すこともできないと思った」と、14歳の少女が言いました。来場者アンケートでも、「買われた」経験をもつ10~60代の女性たちからの感想を300通ほどいただきました。かき消されてきた声があることを改めて感じています。

私たちが、いま、ここに生きていることを知ってほしい。

# 啓発事業

講演会  
30  
回

参加者  
2,924  
名

「関係性の貧困」「性的搾取の対象になりやすい中高生」「居場所やつながりを持たない高校生」「SNSの危険」など、青少年を取り巻くさまざまな問題、実態について講演やワークショップを行います。また、夜の街歩きツアーでも、子どもを取り巻く危険を伝えています。

講演依頼を受け付けております。

HPからお問合せください！

「最近の若者はわからない…」  
「子どもたちを守るにはどう関わればいいのか？」  
一緒に考えてみませんか？

- 講演・ワークショップ
- 夜の街歩きスタディーツアー
- アウトリーチ支援者養成講座



テーマは、家族関係、友人関係、居場所、進路選択、JKビジネスや性について、SNSの使い方や危険、国際協力や被災地での活動、貧困問題について

等幅広く、中高生の目線に合わせてお話しています。講演会をきっかけに、相談支援につながったり、教員など身近な大人にSOSを上げる生徒も少なくありません。

## 参加者の感想

● 定時制高校・高1女子 「友達がJKリフレや夜の仕事をし  
て、中学んとき自分もやろうとした。でも裏の世界で働いて  
る先パイで幸せそうな人もいないし、だからそのために高校も  
卒業して色々な事を学びたいと思った」

● 全日制高校・高2女子 「人って変わるんだと思った。どんなにやんちゃで  
も、ひきこもり気味でも、人は絶対変わる。今この場所この時間にいられるこ  
とがどれだけ幸せか考えさせられました」

● 特別支援学校・高3男子 「しょうじき、ぼくの人生も楽しいといえず、学校  
に行くのも仕事に行くのもいやす。ぼくには助けしてくれる人はいない。  
1人なんだって思って、最近は食欲もない、人を信じられない、それでも頑張っ  
て生きています」



今、日本の中高生はどのような状況におかれているのか。活動の中から見えてきた実態をお話します。

テーマは、女性の人権、虐待、貧困、高校中退、不登校、子どもの居場所、性暴力、インターネットの危険等、さまざまです。困っている子どもたちがどんな想いでいるのか、その背景には何があるのか、私たちには何ができるのか、一緒に考えます。

## 参加者の感想

● 70代男性・電話相談員 「知らない世界が生々しく迫ってきた。知らぬ単語が続出し、戸惑い、不勉強かなと思った。10代の使用ツールなど、詳細を話していただけてよかった。我々の時代とは違う生き難い実態を知り、予想以上の現実に驚いている」

● 40代女性・保護者 「女子高生の現状を聞きショックでしたが、その現状を知らなかったこともショックでした。子どもが性の対象として消費されている現状。私にも小学生の娘がいるので、母として、女性として、人として、考えさせられました。自分にできることは何か、じっくり考えたい」

## 2018年度 講演実績 (一部、敬称略・順不同)

### ■ 行政・公的機関

ふじみ野市／松山市男女共同参画推進財団

### ■ 民間団体

子どもセンターてんぼ／ホザナ・ハウス／チャイルドライン青森／目黒区更生保護女性会／江南保護区保護司会／名古屋YWCA／しまね性暴力被害者支援センターさひめ／えひめ女性財団／女性グループすいー

ぷ／人身取引被害者サポートセンターライ  
トハウス／アジアの女性と子どもネットワ  
ーク／曹洞宗宗務庁宗議会／まちぱっと／  
ゆめの実行委員会／全国保険医団体連合会  
女性部／千葉県民主医療機関連合会

### ■ 教育関係

日本社会福祉学会／千葉県高等学校教育研  
究会養護部会

### ■ 学校・少年院 (生徒向け)

四條畷市立四條畷中学校／川崎市立高津高  
等学校定時制／静岡県立小山高等学校／埼  
玉県立富士見高等学校／静岡県立大学／明  
治学院大学／一橋大学／交野女子学院／貴  
船原少女苑／丸亀少女の家

# 夜の街歩き スタディー ツアー

夜の繁華街を歩き、身近にありながら大人たちの目には見えにくい現状を解説します。  
目で見て肌で感じただけ、現状を知り、「気づける大人」を増やしていくための活動として位置づけています。  
普段の生活の中では気づきにくい、少女を取り巻く現状を知っていただく機会です。ぜひ、ご参加ください。個人での参加のほか、団体の研修としてもお受けしています。  
8名以上での申し込みで、お好きな日程で調整可能です。

■参加者：教員、保護者、児童福祉、医療、警察、行政関係者、弁護士、議員など

開催数

26

回

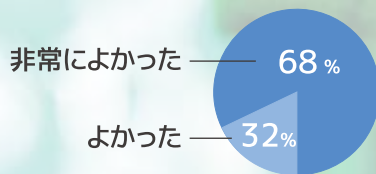
参加者数

266

名

## ツアー参加者の満足度

(アンケート回答者62名)



- ・少女を取り巻く危険や実態を知ることができた — 96%
- ・これまで気づくことのなかった現状を知れた — 100%
- ・青少年を見る目や、若者に対する見方が変わった — 76%

## 参加者の声

**子ども達に、社会で困った時に役立つ情報とスキルを分かりやすく、受け入れ易い形で伝えられるきっかけになりました。**

法務教官として少年院に勤務していました。法務行政に携わる者として、これまで「知識」として知っていた夜の街と性の搾取の現状を、実際に見て、感じて、考える貴重な機会となりました。子供たちの心に寄り添い、真に必要なケアを行うためには、まず我々大人が事実を正しく知ること、そして、可能なことから行動することが大切だと思います。 40代女性 公務員

**大人による暴力・搾取、子どもたちの置かれた現状を知りました。**

今まで知らなかった、いや本当は知らないふりをしていただけかもしれない。危険な場所に身を置くのが好きな子、自らすすんで状況に甘んじている子、などと考える事で自分を納得させ、現実から目を背けていたのだと気付きました。以前は私に何が出来るのか、全く分かりませんでした。でも、そんな私にも出来る事が少しでもある事が分かって嬉しかったです。

50代女性

**自分で歩いただけではわからないことを知ることができました。**

困難を抱える（抱えていなくても）子どもたちが今どのような環境に生きているのか、どのようなリスクと隣り合わせにいるのかについての理解が深まりました。子どもたちに寄り添う情熱だけではなく、実情を知り対策を考えるための具体的な知識も教えていただけて良かったです。将来医師になったときは、子どもたちが表現する言動の裏に、どういことが潜んでいるのかをしっかりと考えて接したいと思いました。

20代男性 医学部生



参加者募集中！  
参加希望の方は、  
HPよりお問合せ  
ください。

## アウトリーチ支援者養成講座

街歩きスタディーツアーの参加者のみにご案内しています。座学やワークショップ、「家出体験」などを通して、中高生達が夜の街に出る背景を想像し、気持ちに寄り添えるようになることを目的とした研修です。一人ではなかなかできない家出体験や研修を通して、どんな声かけや支援が必要か、自分の役割・できることは何か、一緒に考えます。研修を修了された方を対象に、アウトリーチ活動へのボランティア募集情報をご案内します。開催情報はお問い合わせください。



# メディア掲載 (一部)

## テレビ・ラジオ

2018年

- 5月 NHKラジオ「憲法記念日特集 いま憲法にどう向き合っか」
- 10月 NHKニュース「繁華街でさまよう少女たちバスで支援へ」  
日本テレビ news every, 「新宿に“10代少女限定”カフェ」
- 11月 J-WAVE「JK RADIO TOKYO UNITED」  
ジョン・カビラさんと対談  
NHK「おはよう日本-少女たちが集う“夜間バス”」  
TBSテレビ「NEWSな2人」加藤シゲアキさんが来所

## 新聞

2018年

- 4月 朝日新聞「DearGirls2018」  
読売新聞「よみうり寸評」
- 5月 Le Courrier (スイス日刊紙)  
「Les lycéennes, proies faciles au Japon」  
福祉新聞「今の気持ち作品に 性暴力を受けた女子が展示」
- 6月 The Japan News「Offering girls light on the dark city streets」
- 9月 琉球新報「女子中高生と生きる～夜の街、保護宿提供」  
神奈川新聞「問われる政治姿勢」
- 10月 デーリー東北「中高生取り巻く問題と実情紹介」  
朝日新聞「夜の街 少女のために「巡回バス」」  
共同通信社「少女に居場所を 夜の街にバス」  
(新潟日報、京都新聞、室蘭民報、山口新聞、静岡新聞、高知新聞、河北新報、奈良新聞、中国新聞、山陽新聞、南日本新聞、宮崎日日新聞、千葉日報、埼玉新聞)
- 11月 福祉新聞「困難抱える女性に出向く支援」  
山陰中央新報「性暴力考えるきっかけに」  
毎日新聞「アイドル過剰な現実」  
東京新聞「少女たちの声に耳を」  
山陰中央新報「貧困や性暴力に苦しむ子ら支援へ」
- 12月 毎日新聞「「児童買春」背景知って」  
全国保険医新聞「搾取される少女たち」  
朝日新聞「「助けて」と頼れる支援を」  
朝日新聞「女性たちのムーブメント 番外編 男性こそ連帯し行動すべき」  
朝日新聞「女性が働きづらいつらい訳、「セクハラ禁止」の法律なく 労働組合も男社会」  
The Japan Times 「'Bus cafe' a haven for abused and exploited young girls」

2019年

- 1月 朝日新聞 フロントランナー「現代をさまよう少女たちと」  
徳島新聞「居場所のない少女へ 支援の必要性訴え 徳島市で講演」
- 2月 読売新聞「街さまよう少女に居場所」  
徳島新聞「「伴走支援」必要性訴え 「少女たちの今」支援団体代表 仁藤夢乃さん講演」
- 3月 中日新聞「春スタートする君へ2 困ったら助け求めて」

## 雑誌

2018年

- 7月 「現代思想2018年7月号 特集 性暴力=セクハラーフェミニズムとMeTooー」(青土社)
- 8月 「月刊社会教育2018年8月号 特集 子どもが笑顔でいられる社会へ」(国土社)

2019年

- 2月 「のんびる2019年2月号 特集 やりなおせる社会へ」(パルシステム生活協同組合連合会)  
「MERCADO LATINO 2019年2月号」(MERCADO LATINO)

## 書籍

2018年

- 7月 「POSSE vol.39 #MeTooはセクハラ社会を変えられるか」(堀之内出版)
- 10月 「オトナの保健室-セックスと格闘する女たち-」(集英社)
- 12月 「貧困研究Vol.21 特集 労働と貧困」(明石書店)

## 機関誌

2018年

- 4月 中央ろうきん若者応援ファンド  
2017報告書「あきらめ、不信心、自暴自棄、夜の街さまよう少女たち。寄り添う大人を増やす「支援者養成講座」スタートへ」
- 5月 「生活と自治2018年5~7月号」(生活クラブ事業連合生活協同組合連合会)

2019年

- 2月 「NWEC実践研究第9号<ジェンダーに基づく暴力>」(国立女性教育会館)

## WEB

2018年

- 5月 Yahoo!ニュース「特集「根底にあるのは性差別です」作家、桐野夏生が迫る、「JK」を取り巻く現代の闇」
- 10月 NHK NEWS WEB「繁華街でさまよう少女たち バスで支援へ」  
The Asahi Shimbun「Pink bus to help schoolgirls from falling victim to sex industry」  
BUSINESS\_INSIDER\_JAPAN「「#神待ち」#家出少女たちにご飯や安全な場所を」  
Kyoudo News+「Pink bus offers shelter to vulnerable girls in Tokyo nightspots」
- 11月 FNN.jpプライムオンライン  
「少女を性被害・虐待から救う“10代限定”ピンクの「バスカフェ」取材した」  
NHKニュース「おはよう日本 少女たちが集う“夜間バス”」

2019年

- 1月 BLOGOS「さまよう少女を性犯罪から守るピンクのバス「Tsubomi カフェ」運営者に聞く児童買春の実態」



詳しくは下記サイトへ  
ダウンロードや記事閲覧できるものがあります  
<http://www.colabo-official.net>

# 2018年度 会計報告

活動計算書 自平成30年4月1日 至平成31年3月31日 [税込] (単位:円)

## 【経常収益】

【受取会費】		
サポーター会員受取会費		3,324,000
【受取寄付金】		
受取寄付金(個人)	13,308,537	
受取寄付金(企業団体)	1,812,595	
受取寄付(クラウドファンディング)	1,183,500	16,304,632
【受取助成金等】		
受取助成金	13,635,144	
受取受託金	10,519,000	24,154,144
【事業収益】		
基礎的支援事業収益	848,900	
居場所づくり事業収益	2,659,632	
自立支援事業収益	320,646	
情報提供事業収益	3,347,186	
支援者養成事業収益	1,671,600	8,847,964
【その他収益】		
受取 利息	249	
雑 収 益	136,322	136,571
経常収益 計		52,767,311

## 【経常費用】

【事業費】		
(人件費)		
給料 手当(事業)	8,328,657	
法定福利費(事業)	1,070,463	
通 勤 費(事業)	57,117	
人件費計	9,456,237	
(その他経費)		
売上 原価	164,246	
給 食 費	543,161	
材 料 費	76,672	
衛 生 費	5,592	
教 養 費	4,800	
業務委託費(事業)	319,485	
諸 謝 金	167,693	
印刷製本費(事業)	229,292	
会 議 費(事業)	128,141	
旅費交通費(事業)	1,836,618	
車 両 費(事業)	235,242	
通信運搬費(事業)	615,590	
消耗品 費(事業)	3,741,587	
消耗什器備品費	495,860	
修 繕 費(事業)	76,788	
水道光熱費(事業)	360,599	
地代 家賃(事業)	2,057,552	
広告宣伝費(事業)	6,653	
接待交際費(事業)	44,214	
新聞図書費(事業)	15,357	
減価償却費(事業)	4,096,079	
保 険 料(事業)	124,980	
租税 公課(事業)	1,250,300	
研 修 費(事業)	92,880	
支払手数料(事業)	317,590	
支 援 費	277,762	
雑 費(事業)	252,513	
その他経費計	17,537,246	
事業費 計		26,993,483

## 【管理費】

(人件費)	
給料 手当	4,699,892
法定福利費	461,406
通 勤 費	255,685
福利厚生費	25,000
人件費計	5,441,983
(その他経費)	
業務委託費	529,200
会 議 費	25,634
旅費交通費	84,175
通信運搬費	291,195
消耗品 費	242,575
修 繕 費	75,600
水道光熱費	76,095
地代 家賃	1,129,918
接待交際費	7,663
新聞図書費	6,048
保 険 料	12,500
諸 会 費	66,700
租税 公課	20,050
研 修 費	46,680
支払手数料	634,396
雑 費	7,800
その他経費計	3,256,229
管理費 計	8,698,212
経常費用 計	35,691,695
当期経常増減額	17,075,616

## 【経常外収益】

過年度損益修正益	384,470
経常外収益 計	384,470

## 【経常外費用】

経常外費用 計	0
税引前当期正味財産増減額	17,460,086
法人税、住民税及び事業税	140,006
当期正味財産増減額	17,320,080
前期繰越正味財産額	30,741,921
次期繰越正味財産額	48,062,001

※なお、繰越正味財産額のうち、2,000万円を「シェルター居場所増設職員雇用積立金」として積み立てています。

## ■ 団体概要

名 称	一般社団法人Colabo
設 立	2011年5月 (2013年3月に法人格取得)
役 員	
代 表 理 事	仁藤 夢乃
副代表理事	稲葉 隆久
理 事	奥田 知志 (牧師、NPO法人抱樸 理事長) 川村 百合 (弁護士、東京弁護士会副会長) 齋藤 百合子 (明治学院大学国際学研究所研究員) 細金 和子 (婦人保護施設慈愛寮 元施設長)
監 事	打越さく良 (弁護士、~2018年度) 中村剛 (弁護士、2019年度~)

# 会員・寄付・物品応援

想いのつまったご支援、  
ありがとうございました！

様々な形で活動を支えていただき、みなさまの想いと行動に心より感謝しています。

寒空の下、薄着で寒さをしのいでいた少女との出会いをきっかけに衣類の募集を開始、生理用品を買えずに祖母のオムツで代用していた少女との出会いから生理用品を、新生活を始める少女のために家電や布団、妊婦・ベビー用品など様々なものを募らせていただきました。



2017年度活動報告会にて、応援者の方々と

必要としているものをすぐにご支援くださり、  
ありがとうございました。

感謝は少女たちと日々を重ねることで、  
お返しさせていただきます。

♥サポーター会員 410人(332万4,000円、554口)

## ♥資金寄付

- 個人の方から のべ482名(961万1,694円)
- 企業・団体から 17件(60万3,348円)
- ワトパツつながる募金を通しての寄付 52件(9万4,847円)

## ♥プロジェクトへの寄付

- アウトリーチ配布グッズ作成 167名(118万円)
- 『難民高校生』を贈ろう 29名52冊分(10万4,000円)

## ♥講演会・企画展会場での募金箱への寄付

14件(73万4,444円)

## ♥物品寄付 776件

(うち、Amazon欲しいものリストからの寄付等金額換算できるもの 177万751円分)

## ♥切手、金券 9万7,648円分

## ♥シェルターオーナー 28名：33日分：99万円

2018年度、28名の方にシェルターオーナーとして33日分の運営費を支えていただきました！

- ・1日オーナー25名/Atsushi Ohata様、Frances Hioki 様、原田正樹様、松井 かおり様、松居 智子様、新谷 ちか子様、中村 剛様、川口 鳩志郎様、お遍路ハウス33様、他16名
- ・2日オーナー2名/岸 千草様、ひろりん様
- ・4日オーナー1名/吉田 浩一郎様

## ♥助成金で支えていただきました！

- 虐待、性犯罪被害女子の保護・自立支援及びシェルター運営事業
- ・公益財団法人日工組社会安全研究財団「広域安全事業助成」250万円
- ・公益財団法人お金をまわそう基金「子ども支援分野」439万8,200円



お金をまわそう基金

- 孤立困窮した青少年に対するアウトリーチ・自支援モデルの構築

・社会福祉法人中央共同募金会「赤い羽根福祉基金」700万円

- 虐待・性暴力被害を受けた少女へ相談に来るための交通費と食事の提供

・ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社「Donate a Photo支援プログラム」114万4,400円



赤い羽根福祉基金



## ♥お弁当・食品提供で支えていただきました

・セカンドハーベスト・ジャパン様



## ♥以下の物品をご寄付いただきました

- ・書き損じハガキ、未使用切手：郵送料として使用します。
- ・図書カード、商品券、カタログギフト：少女へ贈ったり、物品購入に使用します。
- ・テレフォンカード：緊急連絡用として少女に渡します。
- ・電子機器（iPhone、ノートパソコン等）：相談事業に使用します。
- ・制服、衣類、日用品（生理用品、リップクリーム、制汗剤、メイク用品など）：少女に贈ります。
- ・食品：少女に贈るほか、食事提供支援で使用します。
- ・農産物：お米や果物、お肉、野菜等の定期的なご支援を歓迎します！
- ・Amazonほしいものリストからも、たくさんのご支援をいただきました！ 飲食料品、調理器具、掃除用品、家具、家電、寝具、書籍など





# ご支援のお願い

Colaboの支援方法について

ご支援よろしく  
お願いいたします



HP

私たちの活動は、みなさまのご支援に支えられています。

サポーター会員や、シェルターオーナーになって活動継続のための仲間になってください！

## サポーター会員

年会費 / 1口 : 6,000円

私たちの理念・活動に共感いただいた方に、1口6千円 / 年からの会費で活動を支えていただいています。

会員の方々の支えがなければ、活動を継続できません。ぜひ入会し、活動を共に作る仲間になってください！

●会員特典：活動報告会へのご招待や、街歩きツアーなどの研修割引

## 『難民高校生』を贈ろうプロジェクト 1口 : 2,000円

中高生や少年院で出会う少女たちに仁藤の本を贈っています。1口で1人の少女に届けることができます。

## シェルターオーナー

1口 : 30,000円

1口で1日運営する費用がまかなえます。365日開設を目指し、支援を募っています。

## 活動資金の寄付・税控除対象寄付

口座振り込み、またはクレジットカードでのお支払いが可能です。

### ●クレジットカード・口座振込による寄付



Colaboに直接ご寄付いただけます。活動全般を支える資金のご寄付で応援お願いいたします！

■ゆうちょ銀行（ゆうちょ銀行〈振替先選択で「記号番号」から振込の場合〉）

記号) 10150

番号) 91829801

名義) イッパンシャダンハウジンコラボ

■ゆうちょ銀行（他金融機関・ゆうちょ銀行〈振替先選択で「店名」から振込の場合〉）

店名) 〇一八（ゼロイチハチ）

店番) 018

口座) 普通 9182980

名義) イッパンシャダンハウジンコラボ

※2018年7月よりゆうちょ銀行の口座情報が変更になりました。

■三菱UFJ銀行

渋谷中央支店

口座) 普通 0363448

名義) イッパンシャダンハウジンコラボ

### ●税控除対象寄付



Colaboへの直接のご寄付は税控除の対象となりませんが、「公益財団法人お金をまわそう基金」のColaboのページを通して支援いただくと、寄付金額の10割がColaboに届き、寄付者の方は約4割の税控除が受けられます。





公益財団法人

お金をまわそう基金

### ●つながる募金



ソフトバンクのスマホやPCから、携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができます。ソフトバンクスマホをご利用の方限定でTポイントでの寄付も可能です。

  つながる募金

## 食品・物品の寄付



随時必要な物をHPに掲載しています。送付先はお問い合わせください。

## ほしいものリストからの寄付



サイトに必要としている物品を掲載しています。Amazonからの購入でColaboに届く仕組みです。

# 応援メッセージ

私たちも応援しています！



**稲葉 剛** 立教大学大学院特任准教授／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事

相談窓口を作って、待っていても、支援を必要としている人はなかなか来てくれない。これは経済的な貧困や社会的な孤立など、様々な困難を抱えた人たちを支える活動の中で、幾度となく言われてきたことです。なぜなら、「誰かに相談をして、助けてもらえた」という経験を持ったことのない人は、相談をすることによって自分の状況が良くなると思えず、窓口まで足が向かないからです。では、どうすればいいのか？待ちの姿勢をやめて、彼ら彼女らのもとに出かけていくこと。

それがアウトリーチと呼ばれる活動です。居場所がなく、夜の街をさまよう子どもがいたら、自らそこに出かけていく。仁藤夢乃さんたちはこれまで地道なアウトリーチを続けてきました。

2019年春、Colaboとも協働し「東京アンブレラ基金」を立ち上げました。都内のさまざまな団体が「今夜、行き場がない」人に「緊急宿泊支援」を実施した際、費用の一部を補助する仕組みです。Colaboの活動を応援し、さらに連携を進めていきたいと考えています。



**小島 慶子** エッセイスト

「外をふらついているのは素行の悪い子どもなのだから犯罪に巻き込まれても自業自得。性的搾取や性暴力の被害にあっても自己責任。そもそも本人が遊ぶお金欲しさに望んでやっていることなのでは？」こんな意見を、あなたはどう思いますか？街にしか居場所のない子どもたちがいます。経済的な事情や、家庭でのネグレクトや暴力など、様々な理由で帰る場所のない子どもたちがいます。身を守るための知識がなく、頼れる人もいない子どもたちを利用したり、買ったりの大人たちが後を絶ちません。そんな子どもたちが頼れる場所を増やそうという仁藤さんの取り組みに賛同します。



**横田 千代子** 婦人保護施設いずみ寮寮長／全国婦人保護施設等連絡協議会会長

Colaboの存在・働きは、居場所を失った女性たちにとっては心強い味方です。私たちも女性支援をしています。行政機関(女性相談センター)で措置された女性たちへのみの支援です。根拠法を売春防止法として設置されている「婦人保護施設」です。私たちは居場所のない女性たちを直接支援することが出来ません。いつも歯がゆく思っています。Colaboの活動も、本来、私たちが踏み出さねばならない事業だと思えます。行政の後ろ盾もなく今にある活動まで積みかさねられた働きに心から敬意を表します。「受け止めてくれる場所がある」「今晚一晩泊まれるところがある」大事な支援です。被害から身を守ります。Colaboの働きと連携できるシステムが欲しいです。小さな灯が大きな社会の動きにつながる日を待ち望み、祈ります。



© Keiichi SUTO

**桐野 夏生** 作家

仁藤夢乃さんとColaboの、街にバスを出すという素晴らしいアイデアに、心底感心しました。実際に街に出て行って、居場所のない、そして行き場のない少女たちに、手を差し伸べること。それも一時的な支援ではなく、彼女たちの心を引き受けること。言葉にするのは簡単でも、それがどんなに大変で、責任のある仕事であるかは、やってみないとわからないことです。私は、仁藤夢乃さんの信念と行動力に、心から尊敬の念を持っています。そして、でき得る限り、支援していきたいと思っています。



**松本 俊彦** 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長

私はこれまで精神科医として、たくさんの「自分を傷つけずにはいられない」少女たちと出会ってきました。彼女たちは夜の街をあてどなく漂流し、様々な危険な目に遭いながら、いつ死んでもおかしくない生き方をしていました。そして、みんなきまって助けを求めるのがとても下手くそでした——一番しんどい状況のときには病院に姿を見せず、嵐が過ぎ去って少しだけ楽になった頃に、「すごく大変だった」と報告しにやってくる——そんな感じです。それでも、来てくれるのはよいのです。気になるのは、途中からずっと姿を見せないままにいる子たちです。あの子たちは今どこで何をしているのか——。こうした少女たちを救うには、病院や行政だけでは不可能です。夜の街に直接出向き、彼女たちと同じ目線、同じ言葉で語りかけ、手を差し出してくれる人が必要です。私は、そのようなColaboの活動を応援しています。



**安藤 優子** フジテレビ系「直撃LIVEグッディ！」メインキャスター

仁藤さんの少女たちを助けるための活動のすごいことは、常に発想が徹底して少女たちの目線、立場にあることです。そしてきわめて現実的です。少女たちがなぜ自らを危険な目にさらさなくては生きていけないのか、どうしてそうなってしまったか、そんな少女たちがほんとうに必要なとしているものはなにか、彼女は過去の体験から同じ目線で寄り添いながらその答えを見つけようと頑張っています。私は仁藤さんたちのチャレンジ、活動を応援いたします！



**水谷 隼** リオデジャネイロオリンピック卓球男子シングルス銅メダル、団体銀メダル、木下グループ所属

いつの時代でも未来を作り出す子ども達が夢や希望を描ける社会づくりは必要ですが、少子高齢化となったこの国ではそのことがより大切ではないかと思います。ただ、そんな中でも好きな教育を受け、夢や希望を追うことのできる恵まれた環境の子どもばかりではないのも現状としてあります。そして、子ども達の中には何らかの事情で家族や学校から離れ、孤立や自暴自棄となり、居場所を探す子ども達の心に忍び込み利用しようとする者も少なくないと聞いています。そのような現状に目を向け、行き場を探す子ども達の未来のために手を差し伸べて力をつくされている仁藤夢乃さんの活動を私は応援しています。



© Maki Ishii

**石内 都** 写真家

少女という一瞬をどうやっていきるのか、すべての女にとって大きな通過点だ。少女は常に分断され孤立し、いたぶられる。それをはねのける力は一人的少女の中には無い。家族も社会も国家も少女を一人の人間としてみていない。その少女を理解出来るのはかつて少女だった私達だ。少女が少女であるがまま自然でいられるように。

## 2019年度Colaboスローガン『一人ひとりが、活動家』

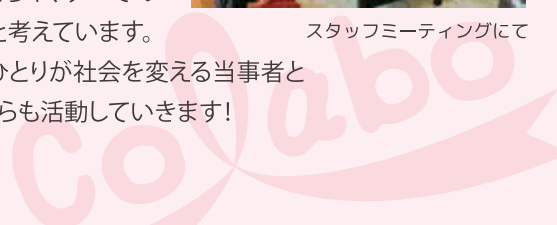
私たちは、創設時から、少女たちを「支援対象」としてではなく、共に声を上げ、社会をつくる主体であり、仲間と考えてきました。支援する／される関係ではなく、共にあることを大切に、一人ひとりの主体性を尊重しながら、共に歩き、共に道をつくってきました。

Colaboの活動は、当事者運動です。Colaboとつながる少女たちや、すべてのスタッフ、ボランティア、寄付者の方々が、社会を変える当事者だと考えています。

支援に関わるスタッフも、事務局スタッフも一丸となり、一人ひとりが社会を変える当事者として、ボランティアさんや寄付者の方々に支えられながら、これからも活動していきます！



スタッフミーティングにて



村上龍氏  
推薦!



## 難民高校生

絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル  
仁藤夢乃

高校時代、私は渋谷で月25日を  
過ごす“難民高校生”だった。  
一家庭・学校のつながりを失い、渋谷  
を彷徨っていた中高時代。やりたいこ  
とも夢も失くし、学校を中退。妊娠、  
中絶、DV、リストカット、自殺未遂…。  
私の周りには、そんな子がたくさんい  
た。人生に絶望した私の前に現れた  
のは、一人の講師だった—

英治出版 ¥1,500円 (税別)  
ちくま文庫 ¥780円 (税別)



## 女子高生の裏社会

「関係性の貧困」に生きる少女たち  
仁藤夢乃

「うちの子には関係ない」「うちの地  
域は安全だ」そう思っている大人に  
こそ、読んでほしい。「女子高生」を  
狙うJK産業で働く少女たちの身に  
何が起きているのか。少女たちの  
本音から、解決策を探る。

光文社新書  
¥760円 (税別)

2016年、  
ちくま文庫から  
文庫化され  
ました!



台湾でも  
翻訳版が  
出版されて  
います!

### 会員になって 活動を支援してください!

年6000円 (月500円) から継続的  
に活動を応援していただくサポ  
ーターを募集しています。

私たちの理念・活動にご共感いた  
だいた方、ぜひご支援よろしくお願  
いいたします。

#### ●会員特典

- ①女の子の想いや日々の活動を伝  
えるColabo通信をお届け (不定期)
- ②活動報告会へのご招待や、街歩き  
ツアーなどの研修割引

### 『難民高校生』を 贈ろうプロジェクト

居場所がない、生きる希望がない、  
頼れる人や相談できる人がいない、  
性暴力を受けている、いじめ、虐待、  
ネグレクト、親や教員とすれ違いの  
日々…そんな高校生たちに、本『難  
民高校生』を贈りませんか?

- 1口: 2,000円で、1人の高校生に、  
『難民高校生』を届け  
られます! 本には、仁  
藤からのメッセージを  
入れ、高校生に贈らせ  
ていただきます。



### シェルターオーナーに なりませんか?

虐待などを背景に少女が家に帰る  
ことができない、家にいられないと  
き、駆け込める場所として開設して  
います。シェルターは、みなさまか  
らのご寄付で運営しています。1口  
で1日の運営費をまかなえます。  
オーナーとして、ご希望の方は報告  
書にお名前を掲載させていただきます。  
ご支援よろしくお願ひします。

- 1口: 30,000円 …1口で、シェル  
ターの1日オーナーになることがで  
きます。365日開設を目指し、支援  
を募っています。

Twitter



@colabo\_official

Instagram



@colabo.official



2019年春、都内のさま  
ざまな団体が「今夜、  
行き場がない」人に  
「緊急宿泊支援」を  
実施した際、費用の一  
部を補助する「東京  
アンブレラ基金」が  
立ち上がりました。  
Colaboも協働して  
います。

Colabo  
一般社団法人 Colabo

講演のご依頼、お問い合わせはこちらから

http://www.colabo-official.net  
メール: info@colabo-official.net



スマホ・携帯はこちらから